「共に学び、生きる共生社会コンファレンス in 北海道」

～NPO 法人　カムイ大雪バリアフリー研究所と道教委の連携～

道教委では、令和６年 12 月７日（土）に旭川市大雪クリスタルホールで、文部科学省委託事業「学校卒業後における障害者の学びの支援推進事業」（道教委事業名：障がい者の生涯学習支援体制構築モデル事業）の一環として、「共に学び、生きる共生社会コンファレンス in 北海道」を開催しました。

この取組は、令和２年度から実施しており、５年目となります。本事業は、事例発表や講演、講義、体験などにより、障がい理解の促進や学びの場の担い手の育成、障がい者の学びの場の充実を目指したものです。

例年札幌市で実施してきましたが、今年度は、「障がい者の生涯学習支援体制構築モデル事業」地域連携コンソーシアム会議構成員の五十嵐真幸氏が代表を務める「NPO 法人 カムイ大雪バリアフリー研究所」との共催により、旭川市で初めて実施しました。

五十嵐氏の紹介や助言により、大阪で「立たない立ち飲みバル」を主催する牧野美保氏の講話の他、昼休憩を兼ねた「立たないカフェタイム」を実施。第２部「立たないカフェタイム」を中心に、ほぼ全ての参加者が車椅子を使用するなど、１日を通し、当事者の目線で合理的配慮等について考える機会となりました。

また、五十嵐氏には、近隣の社会福祉協議会から約 50 台の車椅子を借用するためにご尽力いただいたほか、本事業の最後に「誰もが生きやすい未来ってなに？」と題したトークセッションでモデレーターとして、コンファレンスのまとめをしていただきました。

参加者からは「『できないことが出来るようになる』だけでなく、『できないこと』自体も学びだと、“学び”について改めて考えさせられた。」、「車椅子ユーザーとしてアドバイスが少しできたかなと思います。」などの声があり、本事業は、障がい者が学校外や学校卒業後も、趣味や教養、スポーツなどに親しみ、より豊かな人生を送ることを通し、障がいの有無に関わらず共に学び、日常生活を楽しむことができる共生社会の実現への一助となりました。

「立たないカフェタイム」の様子

全体会場の様子

分科会会場の様子